

平成28年度 第2回 南丹市放課後児童健全育成事業運営委員会 議事録

平成29年3月23日(木)

午後3時30分～5時00分

南丹市園部公民館 中研修室

園部こすもす放課後児童クラブ

出席

富田委員長、松尾副委員長、田丸委員、坂本委員、船越委員、三宅委員、川勝委員、西田委員

(事務局)南丹市教育委員会事務局社会教育課(寺田課長、大塚係長、岩嶺主任、人羅主事、垣村社教主事)

欠席

小南副委員長、城内委員

*傍聴者なし

1. 開会

①教育委員会事務局(社会教育課長)あいさつ

②運営委員会委員長 あいさつ

2. 報告

(1) 前回運営委員会での意見等のまとめ (事務局から)

①運営委員として保護者の意見をより増やすため増員するという件は、仕事をされている保護者であるため、年度途中からでは難しいと判断。次年度に委員数を増やすよう検討していく。

②保護者の意見を聞く機会を積極的に持つべき、というご意見については次年度初めに今年度使用された保護者に向けたアンケートを行う予定。放課後児童クラブに対するご意見は利用者の方より日々お迎え時等に聞いているが、書面にて意見をいただく。来年の運営委員会にてアンケートの結果を伝えたい。

(2) 平成28年度南丹市放課後児童クラブの現状について

・事務局から下記の5点について、資料等により報告

- ① 開設場所及び開設時間について
- ② 入部児童数について
- ③ 保護者負担金について
- ④ 事故・怪我の状況について
- ⑤ 支援員の認定研修の実施参加状況について

(3) 平成28年度の支援内容の総括について（事務局から）

- ・ 社会教育課放課後児童クラブ担当者のめあてを年度の初めに「チームワークを強化し、健やかで質の高い保育を行う」と掲げた。7つのクラブに伝え、支援員と共に子ども達の健やかな保育を目指してきた。
- ・ 児童の家庭環境や児童個々の性格や特性も多種多様になっている状況の中で、社会教育課では研修に力を入れてきた。あわせて、児童と保護者の思いや願いを把握するための面談を実施している。一人ひとりの児童へ寄り添い、子ども達を大切にしながら保育に反映できるよう取り組んできた。
- ・ 高学年預かりの実施として4年生の受け入れを実施。支援員は「高学年児童の理解」研修を行い、異年齢活動、リーダーシップの育成、集団活動が円滑に進むよう様々な企画を通して豊かな心を育成させたいと進めている。その結果、どのクラブでも落ち着いた雰囲気の中で楽しい日々を過ごすことができ、保護者からも放課後児童クラブでの成長を感じているというご意見をいただいている。
- ・ 次年度は「南丹市教育の指針」にもあるように、学校・家庭・地域の連携協力による子どもが育つ環境づくりの推進の一端として放課後児童クラブも日常的な学校支援、子ども支援の役割を担いながら学校との連携を深め、よりよい保育を目指していきたい。

(4) その他

胡麻どんぐり放課後児童クラブについて、年度末春休みから新保育室を使用する。

3. 質問事項、意見

(委員) 現在の胡麻こども館はどうするのか。

(事務局) 市公共施設等の利活用・処分等実施計画上では、廃園の方向性にある。その後は園庭として利用する計画予定となっている。

- (委員) 現状の園庭に建設したという事で、現在の遊ぶ場所に支障はないか。
- (事務局) 現在は狭いが、引き続き胡麻郷小学校の体育館を利用する等の工夫をしていきたい。
- (委員) 新1年生の半分が入部ということであるが、各校の人数についてどうか。
- (事務局) 各校とも約半分数であるということは確認している。
- (委員) クラブの良い面は1年間のまとめからわかった。親としてはまず宿題をさせて欲しいという思いがあると思うが、宿題への対応はどうなっているか。
- (事務局) 宿題は手洗・うがいの後に行っている。児童クラブに帰ったら、宿題をして、支援員に見せる。中学校へと進学しても、誰かの支援が無いと学習ができないということを防ぐため、高学年には自主的に宿題をできるようにしている。自分で学習スケジュールを組ませている。支援員はそれを本人と相談しながら決めている。
- (委員) 学習に重点が置かれているように思える。色々計画して、時間割でガチガチにするのではなく、放課後児童クラブは家の再現でよいと思う。柔軟な対応ができる様にすべきだと考える。
- また、家にいるために異学年との交流が少ないというのも、今の子供たちの現状のひとつ。この世相を踏まえた保育・支援を行うべきだと考える。
- (委員) 放課後児童クラブでは、今も高学年と低学年と一緒に遊ぶなどの交流をしている。その場で上の子が、下の子に色々教えているところを見ている。
- また、子どもの貧困問題を背景とする課題にも取り組んでいただいている。児童クラブがあるから、安心して任せられる。支援員さんが少人数というところから弊害はあるかもしれないが。保護者のお迎えの顔を見ていると、愛情たっぷりの顔を見ることが出来る。放課後児童クラブは安全に、健康に、明日への意欲を育むよう育てていただいていると感じている。
- (委員) 新設の胡麻の放課後児童クラブの事務はどこで行うのか。
- (事務局) 同じ全体を見渡せる部屋の角に机を配置し、ロッカーで囲いを作り事務スペースとする予定。
- (委員) 個人情報等もあるなか、仕切りもない事はあると考えるがどうか。
- (事務局) 他の放課後児童クラブ同様、個人情報は鍵のかかるロッカーや引き出しの格納している。これらをもって仕切りをつくり事務作業スペースを確保する方向である。
- (委員) 子どもの貧困問題が出されたが、夫婦が共働きしなければならない現実がある。いじめ問題との関係もある。これらの背景をしっかりと踏まえながら日々の保育・支援にあたっていただきたい。
- (委員長) 本委員会は様々な立場から、色々な意見を出してもらおう場である。色々な意見を積み上げることが重要である。他の意見も伺いたい。

- (委員) 事前におやつをしっかりと選んでいただいている。また、4年生としての役割をしっかりと与えてもらっている。仕事で迎えが遅くなるので、子どもがたくさんいるときは見かけないが、支援員の指導の下、まとまっているように感じる。冒頭にあった負担金の支払い方法については、仕事でなかなか支払いに行けないため、方法の検討ができないか。
- (委員) 迎えが遅くなるので、他の保護者の顔を知らない。学校の清掃を子どもがしているように、年1回子どもと一緒に掃除してもいいのではないか。胡麻の引っ越しなどにも保護者の協力を仰いでも良いのではないかと思う。
- (委員) 平成28年の1年生から、平成29年の2年生のとき16人減っているのが気になる。留守番を始めるには早いと感じるが、なぜ減っているのか。
- (事務局) 必ず1年生からずっと継続ということはない。留守番ができると判断されるのも、それぞれの家庭によって違ってくる。また、下校時刻の変化も関係がある。時間が変わりバスの到着時刻までに、家に仕事から帰れるため申し込みをされないという事もある。
- (委員) 現在は(殿田小)体育館横にて開設していただいております、職員室からよく見え、迎えに来た保護者と顔を合わせて話ができて、連携が取れている。大変な子もいるが、支援員にしっかり見ていただいているので、ありがたいばかりだ。今年度は土曜活用に日が合わず参加していただけなかったが、来年度は前の様に支援員にも参加していただきたいと思う。
- (委員) 支援の必要な児童も在籍する中、学校と連携を深め、一体となって育成ができています。実際に見て連携を深めていくことが大切である。
- (委員) 冒頭にもあったように委員に保護者を増やすのに加え、現場の声、子ども達の様子を生で見ている支援員にも、委員会に参加していただいております。定員の設定の見直しや、守られていない所に関して見直しが必要ではないか。支援員の数の確保はどのようにし、また1人の支援員につき何名の子どもを見ているのか。
- (事務局) 支援員の本委員会への組み入れについては検討していきたい。国の基準として子ども一人あたり1.65㎡以上の面積が必要であり、たんぽぽ放課後児童クラブは使える面積が十分あるため、定員の見直しなども検討する必要がある。
- 支援員の確保については苦慮しており、関係機関と連携を行うことで対応を進めている。現状、1人の支援員につき児童10名程度の保育を行っている。また、支援の必要な児童に対応できる配置にしている。
- (委員) 学校の空き教室を使う事ができれば、子どもが安心して通える。委員に学校の先生がいるため、空き教室の活用について伺いたい。
- (委員) 美山小学校は図書室も無いなど、余剰教室が無い状況である。
- (委員) 殿田小学校は夏休みに図書室を読書等のために使っていただいております。
- (委員) 次の日の授業に影響が出る教室は使っていただけないが、余裕教室ではないが

放課後に限って2階の視聴覚室や和室、以前利用されていた体育館2階のミーティングルームなどは使用いただいている。

(委員) 子どもが狭い所で過ごすとなると、支援員の負担も大きくなると思うが。

(事務局) こすもす放課後児童クラブは1つの教室で40人程度いる。1つの教室に机、カギ付きのロッカーを置き事務スペースとして、子ども達が入らない場所をつくっている。どうしても荷物や活動場所が不足する場合は、廊下や多目的スペースを利用させていただく等の工夫をする中で、安全で安心したクラブ運営に心かけている。

4. 園部こすもす放課後児童クラブの見学

5. 閉会あいさつ

富田委員長